

平成 21 年度第 2 回 経営学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時：平成 21 年 8 月 21 日(金) 午後 3 時から午後 5 時まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者：大塚委員長、岩井副委員長、佐藤委員、福原委員、安田委員
井端事務局長、森下、恩田
- IV. 検討事項

学術会議の動向について

事務局長より参考資料 1, 2, 4 に基づき、学術会議の取り組む「学士課程教育における分野別質保証」について説明があった。

- ・ 8 月 8 日に北原先生をお招きして、学術会議における分野別質保証の検討状況について、理事長・学長会議でご説明をお願いした。その結果、学術会議の取り組み内容の一端が明らかとなった。
 - －例えば、参考資料 1 の 4 ページ 4 行目からの「その際、「基本的な素養」は、単なる～」とあるように、学士課程教育における最高基準を提示して、世界に通用する学士課程教育を目指して行く事が、学術会議の目指すところ。さらに、参考資料 4 に見られるように、世界に通用する学問分野を選定・重点化することも目指している。このため、今後、学問分野を絞り込んでいきたいという意向も学術会議にはあり、日本として世界に通用する分野を確立したいと考えているようだ。
 - －学術会議の質保証会議は 2 つの問題を抱えている。一つは、分野の選定であり、もう一つは世界観の確立である。このため議論の進捗が当初スケジュールより遅れ気味となっている。
- ・ 以上のように学術会議の取り組みが明らかとなり、私情協としては学士課程教育における質保証の取り組みを以下のような方針で進めていく。
 - －学術会議の目指している目標は、日本としてグローバルスタンダードを確立するところにある。つまり、最高基準を目指しているのであって、この点で私情教のスタンスと異なっている。私情教で発信しようとしている質保証は、学士課程教育における **minimum requirement** の提示にある。従って、学術会議と私情教の棲み分けが可能であり、各大学は自身の教育目標や理念に従って、学術会議の基準と私情教の基準の間に質保証の目標を設定すればよい。

経営学教育における質保証カリキュラムについて

前回委員会で宿題となっていた学士課程における質保証のためのコア・カリキュラムについて、各委員から報告・説明がなされた（資料①～⑤）

- ・ 前回委員会に提出された福原委員のカリキュラム案を参考にして、各委員が類似のカリ

キュラム案を作成してきた。カリキュラム案の説明資料のイメージとして、次のような資料を作成することが確認された。

学士力の目標→学士力コンセプト構造図→学習コンセプト階層表→各項目の説明

－資料のイメージとしては大塚委員長の作成した資料①に岩井委員の作成した学士力コンセプト構造図（資料②）を加え、この構造図の説明として佐藤委員の作成した学習コンセプト階層表（資料⑤）を用いる。さらに、各項目の説明として資料①の「1. 学士力の詳細化・コアカリキュラムについて」の説明を加えるという形である。

・資料検討段階での議論は、以下のようなものであった。

－岩井委員の作成した資料②の構造図は、下の二段部分が必要最小限部分とも言うべき内容で、上の二段部分は学術会議が目指す基準に近い部分。経営学教育の反省点として、経営の全体像が捉えられないまま教育が進んでしまう点があった。このため、今後はより早い段階で社会との関わりを学生に学ばせる必要があり、その点を意識した構造図となっている。

－私情教としては、根っこの部分として「組織（企業）の仕組みの理解と社会的責任」の部分重要視していく。

－佐藤委員の作成した資料⑤「学年別の学習コンセプト進化との対応」表は、ミニマムレベルで学士力をどの学年で何を教えるのかが整理されており、ピラミッド構造図の補足説明を行う資料として活用できる。

次回委員会に向けての課題

次回委員会までに、上記のコア・カリキュラム資料を整理して各委員が作成することを確認した。さらに、コア・カリキュラムによって育成される学士力の到達度と測定法についても、次回委員会までに各委員が検討することとなった。その際、資料 A として配布された「第 1 回サイバー・キャンパス・コンソーシアム」の到達度・測定方法を参考として、資料の作成を行うことが確認された。

・次回委員会に向けた資料作成方針の確認過程で次のような話題もあった。

－学習方法について触れた方が良い、という委員会もあった。可能であれば、学習方法についても盛り込んでみる。

－資料 A の到達度は A の段階が浅く、C の段階がより深い段階に位置づけられている。

・役割分担は基本的に定めず、各委員が一貫した資料作りを行ってみることとしたが、岩井委員はピラミッド構造図の部分に重点を置いた資料作りを、佐藤委員は階層表に重点を置いた資料作りを心掛けてみる。到達度・測定法については、各委員が取り組みを行ってみる。

・今後の検討スケジュールは、

上記宿題締切 9 月 28 日月曜日目標、次回委員会 9 月 30 日水曜日 15 時～、次々回委員会 10 月、次々回委員会 11 月を予定する。次回委員会で宿題の検討を行い、次々回委員会

ではインターネットで意見を募るための原案を確定させる。次々回委員会と次々々回委員会の方に意見募集を行い、その結果を11月予定の次々々回委員会で検討する。